

---

# 透析センター・病棟間の統一したバスキュラーアクセス管理にリーフレットを活用しての効果

本間真貴、工藤智恵子、畠山博之、坊良由可、阿部百子、  
佐々木恵子、奈良健平※、灘岡純一※、北島正一※  
由利組合総合病院透析センター、同 泌尿器科※

## The Effect of Utilizing a Leaflet for Unified Vascular Access Management between a Dialysis Treatment Center and a Ward

Maki Honma, Chieko Kudo, Hiroyuki Hatakeyama, Yuka Boura, Momoko Abe,  
Keiko Sasaki, Taketoshi Nara\*, Junichi Nadaoka\*, Seiichi Kitajima\*  
Department of Urology and Hemodialysis, Yuri Kumiai General Hospital

### <緒言>

透析導入患者の平均年齢は年々高齢化してきており、65歳以上での導入は約6割を占めている。高齢な透析患者は透析患者が抱える問題に加え身体能力、認知能力の低下などの問題が重なりバスキュラーアクセス（以下VA）の自己管理が困難なケースが多い。VAは透析患者の生命線と言われており、その管理は重要である。

2011年、病棟看護師のVA管理に対する現状について調査した結果、VA管理に関して自信がないことが明らかとなった。また、透析センターの看護師として、VA管理に必要な知識や情報を広めていくことが課題として挙げられた。そこで、アンケート調査で多かった疑問点や基礎知識を盛り込んだリーフレットを作成・活用することで、透析センターと病棟間で統一したVA管理ができると考えた。

### <研究目的>

リーフレットが統一したVA管理に効果的か明らかにする。

### <研究方法>

期間：2012年3月～9月

対象：全病棟看護師（透析棟・外来・手術棟・ICU・中材及び各部署師長を除く）279名

方法：質問紙調査（留め置き法）

- 1) 昨年のアンケートの結果に基づきリーフレットを作成し、各病棟に配布。
- 2) 病棟看護師にリーフレットを配布1週間後、VAに関するアンケートを実施。

3) アンケートを単純集計し、昨年の結果と比較し分析。

#### リーフレットの内容

シャントの観察方法・貼付用局所麻酔剤（リドカインテープ）の貼り方のポイント・透析前後の観察ポイントおよび注意点・透析用カテーテルについて・その他の注意点を、写真を入れてわかりやすく記載。

#### 倫理的配慮

協力は自由意志で、拒否や途中棄権もできること、協力しないことで不利益は生じないこと、また得られた回答は本研究以外には使用しないこと、プライバシーの保護を保証すること、および研究の目的・方法を書面と口頭で説明し同意を得られた者を対象にした。

#### <結果>

アンケート回収率83.9%、有効回答率99.5%。

質問紙調査の結果、リーフレットを見たと答えたのは88.9%だった。

透析患者を担当したことがあると答えたのは、74.5%（昨年64.5%）で、内シャント、透析用カテーテル、透析用の人工血管、動脈表在化のすべてにおいて見たことがあると答えた人が増加していた（図1）。

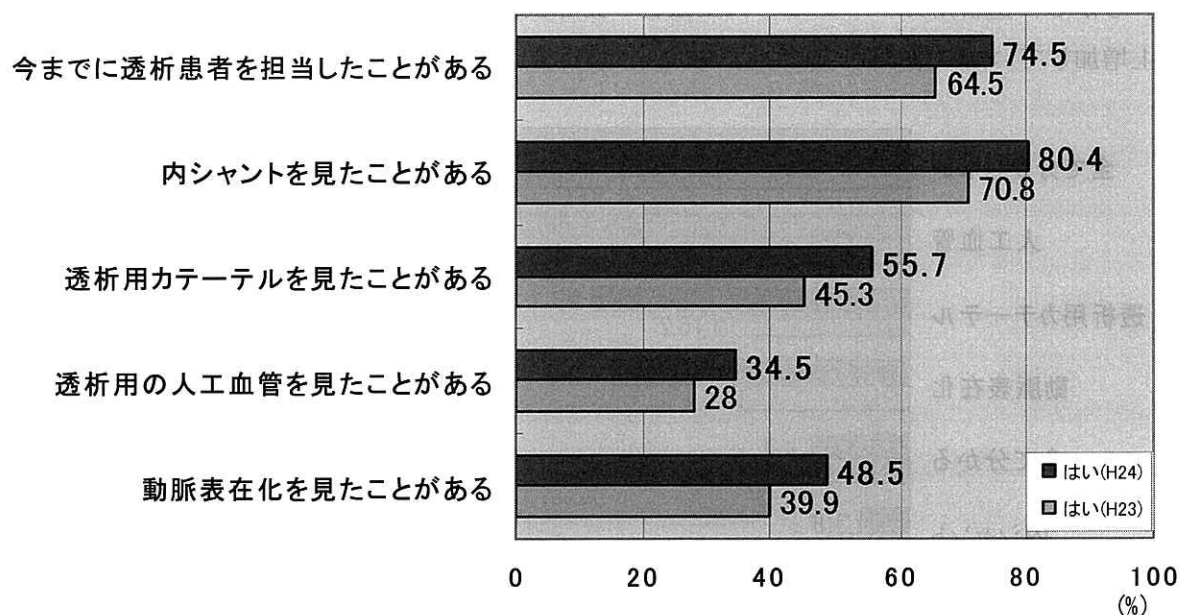


図1 バスキュラーアクセスに関する質問紙調査の結果

VAを観察していると答えたのは57.0%（昨年41.2%）と昨年より増加した。止血バンドをいつ外せばいいか、絆創膏をいつ除去すればいいかを知っていると答えた人は昨年27%前後だったが、今年はどちらも50%前後に増加していた。穿刺部から出血した時の対応の仕方は知っている人が

昨年は28.4%だったが、今年は51.9%に増加した。リドカインテープを貼る適切な部位を知っているかでは昨年の33.8%から55.7%に増加していた（図2）。

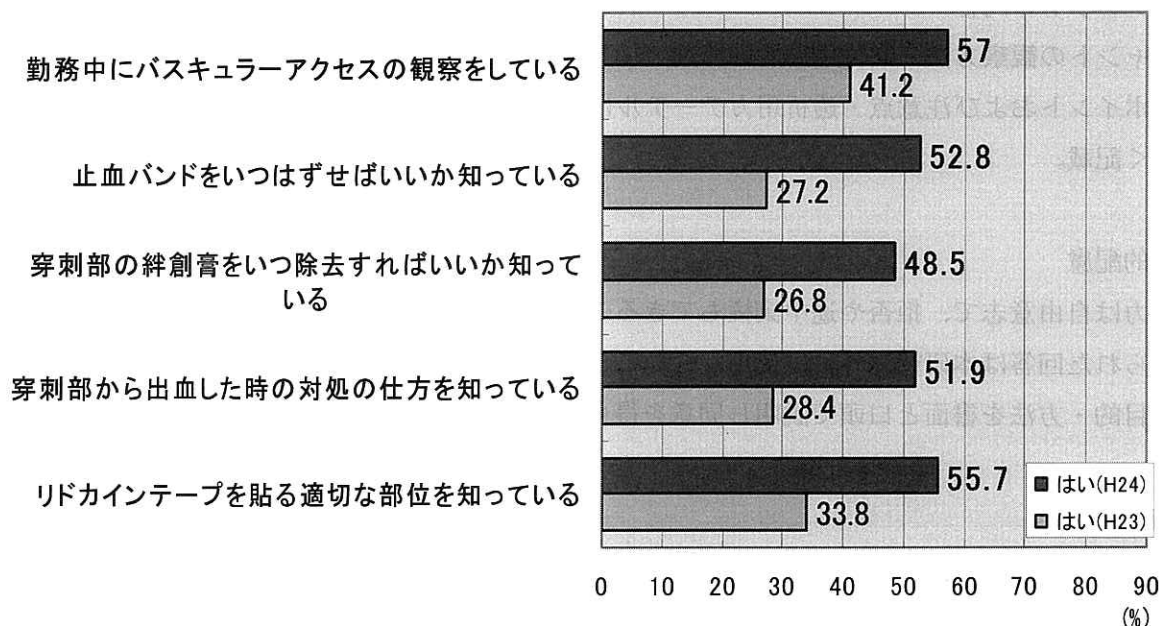


図2 バスキュラーアクセスに関する質問紙調査の結果

VA管理の仕方では、すべて分からないと答えた人が昨年は63%だったが、今年は37.9%に減少した。しかし、透析用カテーテル・人工血管・動脈表在化に関しては分からないと答えた人が10%以上増加していた（図3）。

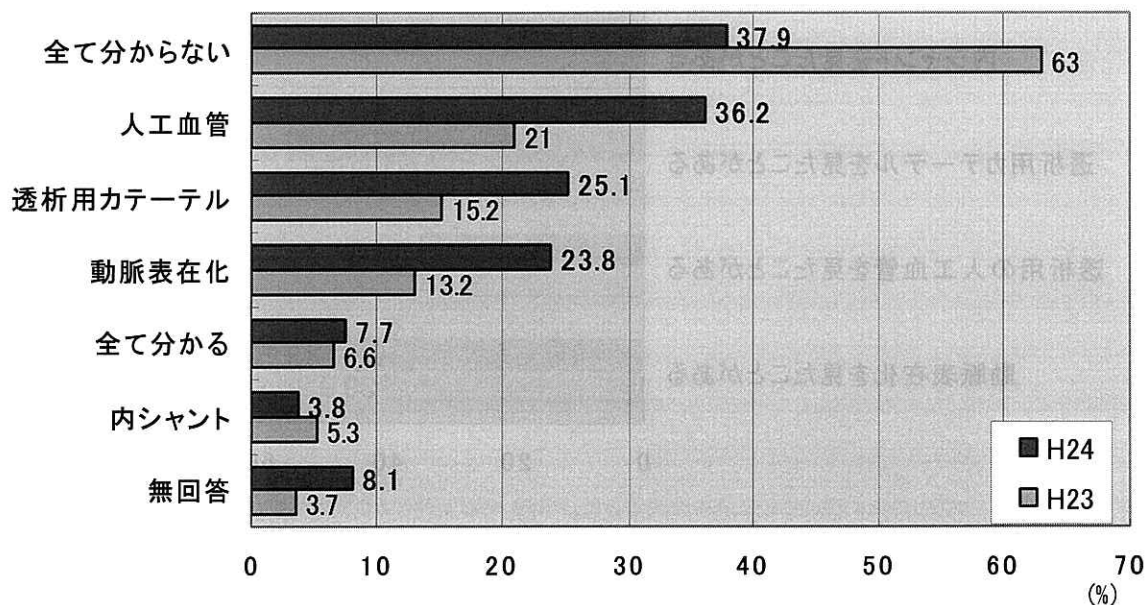


図3 バスキュラーアクセスの種類で管理の仕方がわからないのはどれか（複数回答）

シャント音の確認で不安なことでは、シャントのすべてが20.0%（昨年40.3%）と減少したが、危険な音の判別54.5%（昨年46.5%）、音の違い36.6%（昨年26.7%）と昨年に比べ増加していた（図4）。

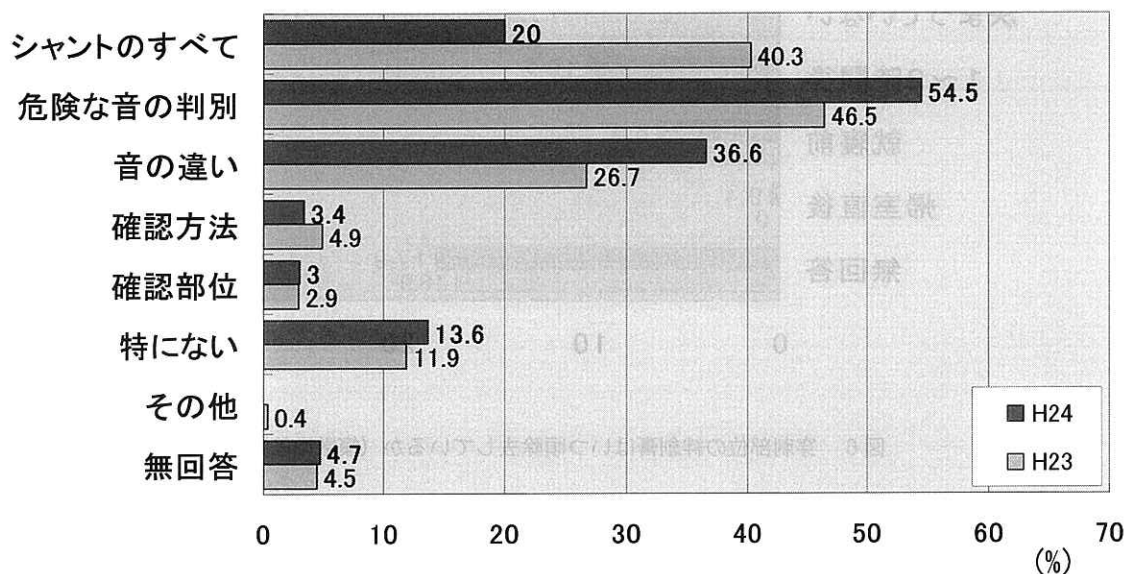


図4 シャント音の確認で不安なこと、わからないことはどれか（複数回答）

帰室後の止血バンドの外す時間や抜針後の絆創膏の除去時間は、昨年と変わらず28%前後が患者の判断に任せていると答えた（図5・6）。

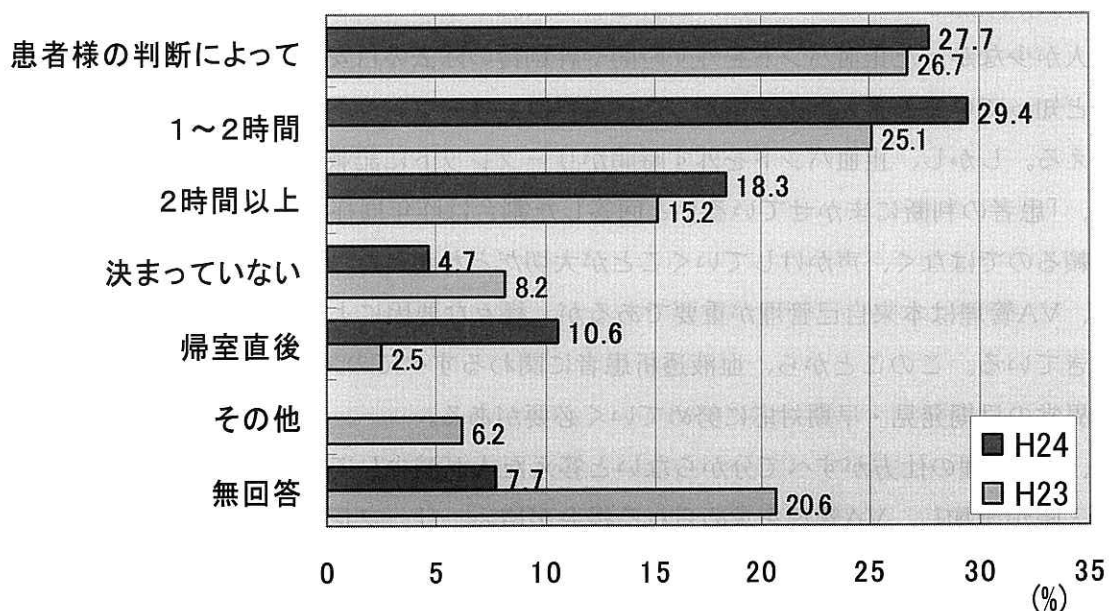


図5 止血バンドで帰室した場合いつ頃外しているか（複数回答）

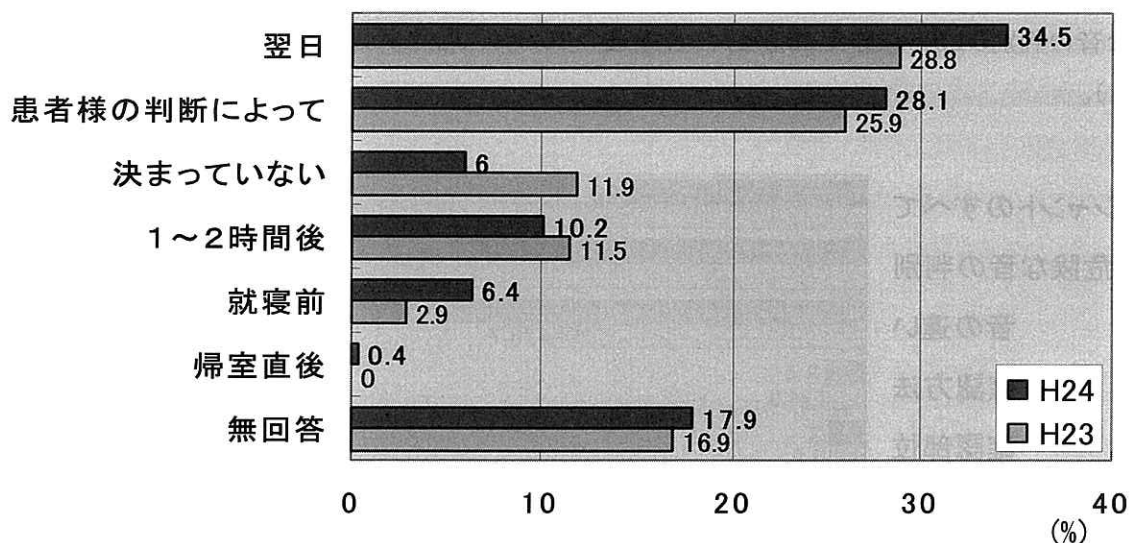


図6 穿刺部位の絆創膏はいつ頃除去しているか（複数回答）

その他の意見として、「分からなかった点がリーフレットで解決した」「もっと早く欲しかった」などの意見が聞かれた。また、リーフレット配布後に、透析用カテーテル挿入患者の入浴方法や消毒方法について電話での問い合わせがあった。

#### <考察>

今回透析患者を担当したことがあると答えた人が昨年より増加し、VAのすべてにおいて見たことがある人が増加していた。これは、透析患者の入院が増えていることの表れと考える。昨年知っている人が少なかった止血バンドを外す時間や絆創膏の除去の目安時間、リドカインテープの貼付部位など知っていると答えた人が増加した。これは、リーフレットを見ることで知識が得られたためと考える。しかし、止血バンドを外す時間がリーフレットに記載している帰室直後と答える人は少なく、「患者の判断にまかせている」と回答した割合は昨年同様だったことから、リーフレットだけに頼るのではなく、声かけしていくことが大切だとわかった。

また、VA管理は本来自己管理が重要であるが、様々な要因によって自己管理が困難なケースが増えてきている。このことから、血液透析患者に関わるすべてのスタッフがVA管理の重要性を理解し、異常の早期発見・早期対応に努めていく必要がある。

今回、VA管理の仕方がすべて分からないと答えた人が減少していた。これは、各病棟への透析患者の入院が増加し、VA管理を求められる機会が増え、リーフレットへの関心が高まったためと考える。実際に「分からなかった点がリーフレットで解決した」「もっと早く欲しかった」など肯定的な意見が聞かれたことから、リーフレットを提供した効果があったと言える。しかし、透析用カテーテル・人工血管・動脈表在化に関して分からないと答えた人が10%以上増加していた。これは、透析用カテーテルを留置している患者が増加しているにも関わらず、カテーテル管理についての内容が不足していたためと考える。

---

また、シャント音に対して不安に思っている割合が昨年に比べ増加していた。宮下<sup>1)</sup>は「言語的なマニュアルのみでは習得が難しく、実際に練習して感覚を体得しなければならない」と述べている。そのことは、視覚で情報を伝えるリーフレットのみでは解決しにくく一緒に聴取する場を提供しなければいけなかったと考える。

中田ら<sup>2)</sup>は「病棟と連携しお互いに透析の知識を深め情報を共有していくことが安全で質の高い看護を提供していく上で重要である」と述べている。統一したVA管理を行うためには知識を周知徹底し、継続して見ていけるような病棟との連携を整えていかなければならない。

今後、透析センター看護師として、患者の個別性や情報を盛り込んだリーフレットへの修正とそれを用いたVA管理についての勉強会を行うことが課題である。

#### <結語>

1. リーフレットを作成、配布したことで、全病棟においてVA管理の仕方がすべて分からないと答えた人が減少した。
2. リーフレットに、透析用カテーテル管理についての情報が不足していたことが分かった。
3. 今後、統一したVA管理をする為、リーフレットの修正やVA管理に関する勉強会が必要である。

#### 引用文献

- 1) 宮下美子：血液透析技術教育、日本腎不全看護学会第21回教育セミナー、腎不全看護セミナーレポート：P10、2005
- 2) 中田雅子、他：病棟看護師に対する透析看護マニュアルを作成し継続看護の充実をめざして、大阪透析研究会会誌第26巻2号：P179、2008

#### 参考文献

- 1) 沢田理恵：認定看護師★チャレンジ通信、2010.5.25 [www.n-jrc.jp/nintei/data/01/01.pdf](http://www.n-jrc.jp/nintei/data/01/01.pdf)
- 2) 奥山直美、他：当院病棟看護師のシャントに関する質問紙調査、旭川厚生病院医誌IX（2）：P167-173、1999
- 3) 水口 潤、他：透析スタッフのためのバスキュラーアクセスQ&A：P148-154、168-172、2012
- 4) 添野真嗣、他：トラブルから患者を守る！バスキュラーアクセス管理、透析ケアvol.17 No.8：P38-61、2011